

〈研究・実践報告〉

## 高知大学農学部の日本事情科目

### —体験型日本事情への取り組み—

今井多衣子・池 純子・東條美紀・尾中美代子

#### 要 旨

高知大学農学部は2000年10月に AAP 特別コースの学生を迎えた際、それまでの日本語カリキュラムの見直しを行った。2000年度は日本事情の半分を体験型の授業、2001年度からは日本語教師が担当する体験型を中心とした日本事情を行った。地域と関わりが深い日本語教師が、初級の日本語を使って、日本文化に直接ふれさせる活動を行う日本事情を担当することにより、地域情報を提供しながら、地域とよりよいコミュニケーションをつくりあげることができるようになると考えたためである。本稿は2000年度から2011年度までの農学部日本事情の授業の内容について述べ、問題点を指摘した実践報告である。

#### 【キーワード】

体験型日本事情 文化体験 初級日本語 地域情報 実践報告

#### 0. はじめに

大学における日本事情の授業に関しては、どのような授業を展開していくか議論されてきた。また、実際の授業についても報告されている。高知大学農学部では、1989年より設けられた日本語担当者以外による英語での日本事情の授業を、2000年10月に農学部が AAP 特別コース (Special program for Foreign Postgraduate Students in Agriculture in Asia, Africa and Pan-Pacific Region :Master Course、以後 AAP コース) の学生を受け入れる際に見直し、2001年度からは日本語教師が担当する体験型の授業に切り替えた。<sup>(1)</sup>

本稿では、2000年度から2011年度の農学部の日本事情の授業内容について報告し、問題点をあげる。

#### 1. 受講対象者

高知大学農学部の留学生は日本語の習得を目的とせず、研究を目的として来日する大学院生が主流である。彼らの多くは家族を呼び寄せて家族で日本

に居住する留学生である。そのため、農学部では、日本事情の受講資格者は、その年度の開講時期迄に渡日した留学生が対象である。具体的には、農学部研究生（4月からの正規大学院留学生）、AAP コースの学生、熱帯亜熱帯連合大学院コースの学生、短期留学生、日本語学習が正規に認められた留学生の家族等である。

2009年度、2010年度には農学部には農学部日本政府が推進する JENESYS Program<sup>(2)</sup>（Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths）の学生が10月から2月まで滞在したため、AAP コースの日本事情のクラスと共に日本事情のクラスを合同で行った。

[表1] 日本事情への参加学生の身分

	AAP	熱帯亜熱帯 連合大学院コース	農学科 大学院生	*短期 留学生	家族	総計
2000	7	1	3	1		12
2001	8					8
2002	5	1		2		8
2003	6	1	2	1		10
2004	11	2				13
2005	8	2	1			11
2006	10		2	1		13
2007	5		2		1	8
2008	10	2	1	1	1	15
2009	7	2	2	12		23
2010	4	5		10		19
2011	4		2			6

\*研究目的で3ヶ月～1年滞在する様々な留学生をさす。JENESYS プログラム参加の学生も含む。

## 2. 農学部における日本事情の変遷

農学部日本語日本事情に関する授業科目は1989年度から2003年度までは、30時間、2単位の正規の農学部の科目であった。その後、2004年度から現在までは補講科目となっている。ただし、AAP コースの学生は2008年度から正規の必修単位科目として認定されている。また、JENESYS プログラムの学生も正規の授業として認定されていた。

## 2. 1. 1989年度から2003年度

農学部では1989年以前は正規授業の日本事情は設けておらず、1989年から日本事情の集中講義が設けられた。これは、農学部独自の授業枠で、農学部の学生にとっては正規の単位となる授業科目であった。

日本事情の授業は当初日本語教師ではない教師がビデオ教材などを使い英語で講義をし、英語で討論をする授業形態を取っていた。しかし、受講者の中には英語がわからない中国人留学生が多く含まれるようになり、学習者のニーズにそぐわなくなってきた。そのため、2000年度にコースの見直しを行い、2001年度から日本語教師が日本事情を担当するようになった。これは、留学生の日本語を担当している日本語教師が同時に日本事情を教える必要性を感じたからである。(3. 1. 参照)

## 2. 2. 2004年度から2011年度

2003年の留学生センターの設置に伴い、2004年度からは、農学部の日本語・日本事情の正規授業時間枠はなくなり、単位とならない日本語補講のみとなった。従来の日本語補講の枠組みに日本事情が組み込まれたため、2004年度当初は3コマしか確保できなかった。しかし、2005年度からは15コマの枠組みで、「日本事情」の補講授業時間が設けられることになった。

ただし、2008年度に AAP コース (名称も Special program for Foreign Postgraduate Students in Agriculture, Forestry and Fisheries in Asia, Africa and Pan-Pacific Region に変更) の学生に対しては、「日本事情」は「日本事情・地域交流」の必修単位として認定された。また、JENESYS プログラムの学生も「日本文化・事情」の必修単位として認定されている。その他の履修生にとっては従来の補講の授業である。

## 3. 学習項目

### 3. 1. 体験型日本事情とは

2000年に筆者らが日本事情の内容を見直したのは次のような理由からである。

- 1 「日本事情」に関しては、当初から、英語を使用して日本語教師以外の外部講師の授業が行われてきたが、年度によっては、英語の不得意な中国人が参加することもあり、学習者に応じての内容の見直しが求められていた。
- 2 農学部の留学生は短くても2年から3年、長期は5年半もの期間高知に

滞在する。また、家族を伴って来日する留学生も多く、彼らが地域に溶け込み、生活するための地域情報や日本文化に実際に触れる機会が必要だと考えた。

- 3 農学部は高知市の中心地より離れており、どこかへ移動するためには公共交通機関を使っでの移動が不可欠である。その使い方を会得することは留学生達にとって生活上重要であった。
- 4 当初は来日直後の留学生に対する日本語集中授業を東條と今井が担当していたため、初級の日本語を学びながら、その日本語の生きた運用の場として日本事情の授業を活かしたいと考えた。細川(1999)によると「日本事情のクラスとはすなわち日本語のクラスでもある。」<sup>(3)</sup>とあるように筆者らも考えたのだった。

以上の理由、特に4の理由から日本事情を日本語教師が担当するようになり、運用の場として体験型の内容が望ましいと考えて試行錯誤しながら現在にいたっている。<sup>(4)</sup>

### 3. 2. 学習内容

次に今まで行ってきた学習項目を[表2]に全て挙げる。これらの項目の中で、学習者のニーズも高くこれからも継続して行っていきたい項目と、今までに見直しを行った項目について、その理由と共に述べる。

[表2] 日本事情の年度別学習項目

項目		年度											
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
(1)	高知へ行こう！	*		*	*	*		*	*	*	*	*	*
(2)	日本語カフェ			*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
(3)	日本料理体験										*	*	*
(4)	日本の年中行事						*	*		*			*
(5)	お正月体験		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
(6)	農学部を知ろう！										*	*	
(7)	雪山体験										*	*	
(8)	日章小学校訪問	*	*	*	*	*							
(9)	市民文化祭見学	*	*	*	*		*						
(10)	スーパーへ行こう！								*	*			
(11)	南国市社会探検		*										
(12)	伝統文化体験	*					*	*					
(13)	講義					*	*	*	*				

### 3. 2. 1. 継続したいと考えている学習内容

#### (1) 高知へ行こう！

農学部は高知龍馬空港のそばに位置し、高知市まで出て行こうとすると自家用車以外には公共交通機関を利用しなければ行くことができない。来日間もない留学生達が如何に自力で高知市まで行けるようになるかは彼らの高知での生活に大きな鍵となる。この活動では、JR、路面電車、空港連絡バス等を使った高知までの行き方や料金を知り、実際に高知まで行って帰る体験をさせるものである。行きはJR 後免駅からJR 高知駅に自分で切符を買い列車で行く。高知駅では高速バスのチケットの購入や利用の仕方を学ぶ。そして、徒歩で大規模小売店であるイオンまで行き、スーパーで食材のチェックをし、輸入食品店等の情報を得る。それから、バスで市内の繁華街である帯屋町まで行き、高知城、日曜市の説明をうけ、ひろめ市場で好きな食材で昼食を取り、帯屋町、中央公園、交番、デパートなどをチェックし、はりまや橋<sup>(5)</sup>から空港連絡バスで農学部まで帰るものである。2006年には高知女子大学（現高知県立大学）の学生が、2010年には日本人ボランティアの人たちが同行してくれた。

#### (2) 日本語カフェ

農学部で年1回行われる大学一日公開日に日本事情のクラスとして喫茶「にほんごカフェ」を出店し、日本語を学び始めて1ヶ月（15時間ほど）の留学生が物品の販売をしたり、ウェイター、ウエイトレスとして日本人のお客さんと日本語で接してもらうものである。コーヒーやケーキを運び、日本人のお客さんに自己紹介をしてから、相手の誕生日を聞いたり、自国への渡航経験を聞いたりするタスクシート[資料1]の質問に答えてもらうという活動を、最低5人の日本人に対して行うタスクである。

販売物品については日本語教師や日本人協力者に依頼をして用意し、この純益を「日本料理体験」や「お正月体験」の材料費や飲食物の購入にあてている。

#### (3) 日本料理体験

日本に留学してくる学生達の日本料理に対する興味は大きい。この活動では、日本の家庭料理を味わい、自分で作るようになることを目的とする。授業では、実際に味噌汁と卵焼きを自分で作り、白米と共に自分達では食べたことがないと思われる「納豆、たくあん、梅干し」などを説明と共に食べてみる体験をさせる。ほとんどの学生は納豆などは、口にしたこ

ともないのだが、日本の発酵食品として認識させ、食べさせることにより、日本の食品を知るきっかけとするものである。

#### (4) 日本の年中行事

日本の1年の年中行事を学習し、高知特有の祭りも紹介する。そして、年賀状を書く練習をし、実際に担当者や、他の日本語教師に出す体験をする。

#### (5) 日本のお正月体験

日本の一般的な家庭<sup>(6)</sup>を訪問し、そこで日本人がお正月をどう過ごすかを体験する。グループにわかれ、門松や注連飾り、盆栽、神棚、仏壇などの説明を受け、お屠蘇、お節料理を頂き、「年をいただく」儀式を行う。その後お雑煮を食べ、ゲーム（福笑い、坊主めくりなど）をし、巻きずし作りに挑戦し、色紙に筆で文字を書く。

上記5つの項目は農学部の日事情として定着してきた内容である。特に「日本のお正月体験」は近年少なくなった日本式家屋での日本的なお正月の儀式的体験ができる機会として学習者からは高い評価を得ている。(後述)

#### (6) 農学部を知ろう！

JENESYS プログラムの学生は滞在期間が4ヶ月と短い上、日本語の授業時間も従来の10月渡日留学生よりは少なかった。そのため、彼らの授業目的に関しては「高知を知る、農学部を知る、そして日本文化を知る。」という点に絞った。そこで、農学部一日公開日においては、AAPの学生は従来通りの「日本語カフェ」への参加であったが、JENESYSの学生達は、一日公開日に日本人児童生徒対象に行われている「農学部オリエンテーリング」に特別に参加させてもらい、農学部の各研究室での活動内容を学ぶ機会とした。

#### (7) 雪山体験

JENESYS プログラムの学生達の参加により、愛媛県の小田深山ソルフェスキー場へバスを借り切って出かけることができた。<sup>(7)</sup>ほとんどが南国育ちで雪に接した経験のない学生達に雪山でそり遊び等をする体験をさせることができた。バスでの往復は7時間かかり、滞在時間は3時間半ほどしかない短い雪山体験であったが、このプログラムは学習者が最も喜んだ企画だった。初めての雪の体験の興奮をほとんどの学生達がレポートに喜んで綴っていた。インドネシアからのJENESYSの男子学生はDVDに映像記録として私たちに残してくれた。

### 3. 2. 2. 見直しを行った学習内容

#### (8) 南国市日章小学校訪問

農学部近くにある日章小学校の文化祭に招待を受け訪問し、舞台の上で日本語で発表をした。その内容は、自己紹介、自国の国旗、通貨などの紹介だったが、2003年度には日本語でロシア民話の「大きなかぶ」を上演した。これは、次々と登場する登場人物を学生に演じさせ、その登場ごとに「私は～です。～から来ました。」と自己紹介をさせた劇であった。2000年度から、2004年度迄日本事情の授業内でこの訪問を行ったが、日章小学校の文化祭がいつも2月に入って行われるため、現在では学習項目として取り入れていない。しかし、2005年度からも自由参加の形で授業外で参加を続けており、主に日本事情参加の学生に「日本の小学校を知る。日本語を使って発表する。」という目的で積極的に参加を促している。

#### (9) 南国市民文化祭の見学

市民が趣味として楽しんでいる華道、茶道、書道、絵画、墨絵、陶芸、俳句、写真などの作品を鑑賞し、お茶の体験をする。これらは、「お正月体験」の際、書道・お茶を経験し、日本人の趣味などに触れるようにして組み込んでいるため、現在では行っていない。

#### (10) スーパーへ行こう！

スーパーへ行って、日本の食品の説明をうけ、自分に必要な情報を得る方法を学ぶ。そして、簡単な日本料理を作る。これは、現在「高知へ行こう！」と「日本料理体験」に組み込んでいるため、行っていない。

#### (11) 南国市社会探検

2001年度には南国市役所の好意で、市役所のバスを手配してもらい、南国市の清掃工場や重機製作工場の見学を行った。市役所のバスを利用する機会を得ることはなかなか難しく、この見学はこの回のみで現在は行っていない。

#### (12) 伝統文化体験

2000年度は書道体験、2005年度は折り紙を折る体験、2006年度は教室でお茶の体験をした。これらは現在では、お正月体験の中に組み入れて実施している。

#### (13) 講義

2005年度には、教室での学習として以下のような学習をした。2004年度、2006年度、2007年度にも一部の内容で実施している。

##### 1. 日本の地理（都市、産業）

2. 日本の歴史 (TV で時代劇を見る)
3. 日本の社会 (日本人の一生、教育、会社組織、人間関係)
4. 日本の経済 (各国の比較、職業、サラリーマンの一生〈就職、給与体系、昇進、定年〉雇用制度、フリーター、若者の職業観)

これらは、実地体験を優先させたために現在は設けていない。

### 3. 3. 2011年度の日本事情シラバス

次に、2011年度のシラバスをあげる。今年度は、JENESYS プログラムの学生達の来日はなかったため、雪山体験は企画できなかった。そのため、2008年度までに行ってきた内容を整理して、シラバスを設定した。

[表 3] 2011年度の日本事情シラバス

回	日付	テーマ	内容	コマ数
1	10/18(火)	オリエンテーション	自己紹介・日程確認・日本の生活	1
2	11/1(火)	日本語カフェ準備	タスクの日本語練習、予定の確認	1
3	11/3(日)	日本語カフェ	大学一日公開日に日本事情のクラスで喫茶店を出し、地域の人々と簡単な日本語で交流する機会を持つ。タスク表を提出。	2
4	11/27(火)	日本料理体験	日本料理に挑戦する。	2
5	12/17(土)	高知へ行こう!	公共交通機関を使って高知市へ行く。	3
6	12/20(火)	日本の年中行事	日本の年間伝統行事の学習・年賀状を書く。	1
7	1/4(水)	日本のお正月体験	日本のお正月を体験する。	4
8	1/17(火)	討論会	コースについての反省会意見交換	1

### 3. 4. 2011年度のアンケート結果

2011年度の受講者へのアンケートから日本事情の授業に関する学習者の反応を見てみる。

これは、学期末に行う高知大学国際・地域連携センター国際連携部門実施のアンケートとは別に、今井が単独で行ったアンケートである。英語で質問し、英語で答えてもらった。以下の訳は今井が行った。文中、( ) 内のこ



とばはすべて今井が補足したものである。([資料2]参照)

(1)～(6)では上記シラバスの2～7回に行った内容について参加者に感想を聞いた。全員各項目については「必要であった」という1を選び肯定的な意見を述べている。[表4]は、その理由を学習者に聞いた結果である。受講者をA B C D E Fで表す。

ⅡⅢⅣの項目については、考察の中でアンケート結果を含んで述べる。

[表4] 学習者が各項目を必要とする理由

<p>(1) 日本語カフェの準備について</p> <p>A (中国男1) 練習は我々に日本文化の常識を教えてくれた。</p> <p>B (中国男2) 文章や言葉についての基本的な知識を知る必要がある。</p> <p>C (フィリピン女) 次の行動(日本語カフェ)のために必要だった。</p> <p>D (インドネシア男) 日本語を話すことを練習しなければいけない。</p> <p>E (ガーナ女) どうやって公開日に日本人と接するかについて知ることに役立った。</p> <p>F (ネパール男) カフェでどう働くか、お客さんとどう接するか学んだ。</p>
<p>(2) 日本語カフェについて</p> <p>A 地域の日本人との会話練習ができた。日本語学習の継続への自信を得た。</p> <p>B 地域の人と話す良い機会だった。日本語能力の低い人が日本語で話すのはちょっと難しい。</p> <p>C 日本語で話すのは難しかった。</p> <p>D 日本語で日本人と話したことが良かった。</p> <p>E 全部興味深く、多くのことを学んだ。</p> <p>F カフェで働き、日本人と話し、物を売ったことも興味深かった。</p>
<p>(3) 日本料理体験</p> <p>A 簡単な日本料理を学び日本の食べ物を食べた。美味しかった。</p> <p>B 日本の食べ物は人気があって美味しい。滞在中日本食を作るのに役立つ。卒業後の良い経験だ。</p> <p>C 異なる味の日本食品を食べる経験はおもしろかった。</p> <p>D 日本の食材の料理の仕方、食べ方を学んだ。初めて納豆を食べた。</p> <p>E 私は一番お好み焼きが好きだ。日本料理の名前も覚えた。</p>
<p>(4) 高知へ行こう！</p> <p>B 高知城へ行きたかった。</p> <p>C 経済的に高知へ行く方法や自分一人では行けない町のあちこちを見るのはとても有益だった。</p> <p>D 外に出て行くことはいつもうれしい。</p> <p>E 旅は教育的でおもしろかった。</p> <p>F 外へ出て、バスと電車で移動し、人と会う経験をした。</p>

(5) 日本の年中行事

- A 年賀状の書き方を学び、授業後先生に送った。とても有意義だった。
- B 日本の文化である伝統的行事の考え方を知ることは必要である。体験できるともっといい。
- C 1年の行事を知ることができたが、私は先生に年賀状を送れなかった。
- D 正月の意味を知り、年賀状のやりとりができて良かった。
- E 日本語で年賀状をどう書くか学んだ。
- F 日本語でのお正月の挨拶を学び、お正月が大切であることを知った。

(6) お正月体験

- A この授業で一番の内容だ。東條先生の家の訪問は私には初めての日本人の家の訪問だった。門松や注連飾りについて学んだ。お茶や書道などとても良い経験だった。
- B お正月はおもしろい。ほとんどの日本人にとって最も大切な行事だと思う。日本の文化を知るのに役立った。
- C おもしろく興味深いことばかりだった。チキンが特に美味しかった。
- D 日本文化を知り、おいしい食べ物と甘いお酒を飲んでよかった。
- E 文化と書道の体験はおもしろく食事も美味しかった。
- F 日本人の家に行き新年のお祝いを経験した。日本の食べ物とお酒（お屠蘇）を飲み、お茶を経験した。

### 3. 5. 2011年度アンケート結果の考察

- (1) 日本語カフェの準備についてはC Dのように実際に日本語カフェで接客のための準備の必要性を認識していた。
- (2) 日本語カフェについてはAのように実際の場面で日本語が使えることが学習への意欲を与えている。地域住民と話すことで本来の目的が達成されたことがうかがえる。また、Fの意見からも、地域と交流したい気持ちがある。しかし、Cのように日本語表現の難しさを述べた意見もあった。
- (3) 日本料理体験では、D Eのように他の人の話やテレビをみるだけでなく、実際に自分の舌で味わうという実体験をしたことがわかる。
- (4) 高知へ行こう！ではFの記述のように他の人との出会いを留学生は持っていないことがわかり、その場を提供することに役立ったと言える。またBの希望は前年度までの参加学生からも出ていたのでこれからのコース設定の際の考慮すべき点であろう。Eは意見として「高知へ行こう！」は来日直後に学習すべきだ。そうすれば学生は退屈せずにもっと高知の生活を楽しめるだろう」と書いていた。「高知へ行こう！」は本来なら、

留学生が来日直後に行っているが今年は少し時期が遅かったのでこのような意見が出たものと思われる。またEは予備教育生であったため来日が2011年の4月だったこともこの意見を述べた理由と考えられる。

- (5) 日本の年中行事では、書いた年賀状をA Dのように実際に送るという活動ができ、相手とコミュニケーションができた様子がうかがえる。
- (6) お正月体験は全員が実際に日本人の家に行って日本流お正月体験ができたことを素直に喜んでくれている。これは、Ⅱどの内容が一番でしたかの問いに対する「お正月体験：4名、高知へ行こう！：2名」の答えからもわかるように「お正月体験」は学習者に非常に人気がある。また、B Dの記述にあるように、「日本文化を知った・知ることに役立った」とこの体験を通じて文化理解ができたととらえていることがわかる。

Ⅲ「来日直後に何を学びたかったですか」の質問では「A挨拶、食文化、ふるまい、日本人の生活」「B日本語と文化」「C（車の）激しい通りをどうやって自転車で通るか。歩道を見つけるのが難しい。高知市以外の場所や、日本の他の場所への旅行をしたい」「D銀行口座を開くこと。基礎の日本語を学ぶこと。免許をどうやって取得するか」「Fスーパーで手に入れない食材をどうやって見つけるか。町の位置、地図情報。地震と津波と台風の情報」などであった。

来日直後の知りたい情報は、文化的な事柄、生活情報、日本語の問題等に分けられると思う。Cのような希望は初めて聞くが交通指導なども考慮に入れると良いのかも知れない。また、Fの地震や津波、台風の情報についての伝達は、東日本大震災を受けて海岸に近い農学部では不可欠な情報になる。今年度は大学でも避難訓練等が行われていたが、外国人はややもすると情報弱者になる危険があるので、情報伝達の手順も教えていかなければならないであろう。

Ⅳ「体験型の学習についての問い」に対しては「A経験して日本語を勉強することは一番である。練習は完全を作る。経験は真の練習である。私は外での活動は言語活動において重要な役割を果たすと考える」「B伝統的な行事などに全部参加したい」「C最初にいろいろなことを経験できることはすばらしい。ただ（ビデオやテレビを）見るだけでは学生は何も学ばない。しかし、体験は私たちの経験と知識を増やしてくれる」「E行動し、経験することはテレビやビデオを見るよりもより生々しい記憶となると考える」の意

見があった。これらは、積極的に体験重視の意見を述べているので、体験しながら学ぶという方法はこれからも続けていきたいと考えている。しかし「F体験することもテレビやビデオの学習もどちらも有益である」のように、講義の有益な点にも言及している学生もいる。必要な情報については適宜教室内で教えていくようにはしたい。(Dはこの問いに関する記述なし)

#### 4. 評価

体験型の日本事情の評価はまずは、参加することにあるので、参加してタスクをこなし、レポートを提出することを評価の対象としている。評価をきめる要素の配分は、課題5割、受講態度3割、出席2割である。課題レポートはフォーマットを決め、メールで提出し、タスクシートは1週間以内に担当者のメールボックスに返却するようにしている。レポートに添付するように指示している写真からは、学習者が日本人が予想しないような思わぬところに興味を持っていることがうかがえて興味深い。また、レポートからは、実際に体験して理解した事柄への記述が述べられている。今回のお正月体験のCのレポートでは「訪問時の挨拶、お節料理のいわれなど」を知ったことを述べており、また「年をいただく」儀式についても以下のように述べている。

There was a shrine in the room with the New Year's décor in it and a big rice cakes that you have to hold while bowing low and whispering to yourself "Itadakimasu". The person holding the rice cakes should be very careful not to allow the decors on top of it to fall off or not very good things will happen to that person.

現在では日本人でも経験することが稀なこれらの経験を通して日本のお正月を体感できたことは日本の文化を知る上で貴重な経験になったと考える。

#### 5. 「日本事情」に関する問題点・考察

2000年度から担当してきた体験型日本事情の問題点を挙げる。

##### 5. 1. カリキュラムの問題

アンケートにもあったように、「高知へ行こう！」に関してはできるだけ早い時期に学習者の必要性に答えるように設定する必要がある。また、来日直後に知りたい情報としてあげられていた高知に関する情報や、農学部周辺の生活情報も同様に時機を逸しないよう、生きた日本事情になるように適宜

情報を伝達していく必要がある。

そして、学生個人で出かけることが難しい雪山体験のような機会が例年行えるような条件が整うよう望みたい。

### 5. 2. 教師側の問題点

まず、経費の問題がある。日本料理体験やお正月体験での食材の購入は日本語カフェでの実益でまかなっている。しかし、いつまでも日本語カフェでの販売品を協力者に依頼できるかわからない。これも人的協力があってできる内容である。いつまでも潤沢な協力者が得られるとは考えられないので、いずれは、参加者負担の形を取らざるを得ない状況になるかもしれない。

また、これらの授業を実施するにあたっては担当者の授業時間外にその準備にかなりの時間と労力を必要とする。担当者の負担なくしては成立し得ない側面を有する。

そして、学生に最も人気があるお正月体験は従来の日本家屋においてこそ成果が大きい企画である。しかし、最近の一般的な住居ではすでに床の間もなく、仏壇、神棚のない家も多い。いつまでも現在の形でのお正月体験が続けられるとはいえない現実も見過ごせない。いずれ、別の形でのお正月体験を考えていかなければならない。これは大きな問題点であるが、時代に応じた対応を工夫していくしかないであろう。

### 5. 3. 受講者側の問題点

体験型の授業は受講者から見ると受動形式で、学習者が学んだ成果がすぐに現れるものではない。いわゆる「楽しんで終わってしまう」という問題がある。そうはならないようにタスクシート、レポートを課しているが、体験型日本事情の授業の結果をよりよい日本の社会の理解につなげていくためにはこれらの振り返りをその都度積み重ねていくことによって工夫をしていかなければならない。

また、農学部の留学生は「日本語」という理解のツールを持たない学生である。文系の学生とは異なり、彼らの学習内容は直接日本文化理解へと結びつかない環境にいる。そのような理系の学生にどうやって日本社会・日本文化を理解させていくかということはこれからの大いなる課題である。

そして、最近の学習者は背景がそれぞれ異なっている。それぞれのニーズを分析して適切なプログラムを組んでいく必要がある。長期滞在する学習

者にとっては、もう一步踏み込んだ内容の授業が必要になり、いずれそれらにも対応していかなければならないだろう。

細川(1999)に「『日本事情』のクラスとは、日本の社会・文化の理解とそれへの適応であるとともに、使用言語としての日本語のための総合的な訓練の場でもあり、また、自らの社会・文化を客観視する相対化の作業の場でもある。そのことは、社会・文化の体得を通して学習者に問題発見を体験させるというこの作業が自律的に設定された自らのテーマを学習者とともに考えるクラスの中に活かそうとする担当者自身の不断的努力の元ではじめて成立する作業であることを示すものなのである。」<sup>(8)</sup>とあるように、最終的には常に教師自身が自らに問いかけていかなければならない作業であることを覚悟しなければならない。

## 6. おわりに

2000年度から行ってきた農学部の体験型日本事情への取り組みの経緯を述べてきた。当初は筆者らが初級日本語の講師を担当していたことにより、日本事情の内容との関連・連動を容易に行えていたが、最近では筆者らが初級を担当することは稀になった。しかし、できるだけ担当教官と内容の詳細についての情報交換をすることにより当初目標とした「学習した日本語の運用の場としての日本事情」を目指していきたいと考えている。

しかし、農学部のような理系の研究室生活を送る留学生にとっては、大島(2008)で触れられているように、日本における研究室でのルールを知り、コミュニケーションを円滑にする方策の習得は不可欠である。これらの点を短時間で習得するためにたちはだかるのは言葉の問題であるが、この点については今後の課題としたい。

## 注

- (1) 今井多衣子(2005)「高知大学農学部における日本語教育－AAP コースの日本語学習者のためのコース・デザインを中心に－」『高知大学留学生センター紀要』創刊号 pp.65-78
- (2) ジェネシス プログラム (21世紀東アジア青少年大交流計画)  
[http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/jc\\_koryu21/sdk\\_keikaku.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/jc_koryu21/sdk_keikaku.html)

平成19年1月に開催された第2回東アジア首脳会議(EAS)において、安倍総理より、大規模な青少年交流を通じてアジアの強固な連帯にしっかりとした土台

を与えるとの観点から、EAS 参加国（ASEAN、中国、韓国、インド、豪州、ニュージーランド）を中心に、今後5年間、毎年6,000人程度の青少年を日本に招く350億円規模の交流計画を実施する旨発表した。これに基づき、政府は、「21世紀東アジア青少年大交流計画」（英文名：JENESYS Programme）を19年度より立ち上げ、各国及び関係機関等との協力の下、招へいや派遣等、様々な交流事業を実施している。

- (3) p.225
- (4) 東條と今井は2000年の見直しの時から日本事情を担当し、2004年からは池が加わり3人で、2009年、2010年は尾中が加わり4人で担当した。しかし、2011年にはまた、東條と今井の2人で担当している。
- (5) これらは高知市の中心街に位置する。
- (6) 筆者らの一人である東條宅で例年行っている。
- (7) JENESYS プログラムの学生の経費は別会計で行われた。
- (8) p.249

#### 参考文献

- 大島真紀(2008)「日本語研修コースにおける〈文化〉の扱い」『鹿児島大学留学生センター年報2007～2008』 pp.55～63
- 岡益巳(2005)「異文化体験・交流を目的とした日本事情科目の諸問題」『岡山大学留学生センター紀要』第12号 pp.75-90
- 小林ミナ(1999)「北海道大学日本語研修コースにおける「日本事情」授業」『広島大学留学生教育』no.3 pp.77-83
- 細川英雄(1999)『日本語教育と日本事情』明石書店
- 尤銘煌・黒沢晶子(2008)「地域のリソースを活かした日本文化体験授業」『山形大学留学生教育と研究』第1号 pp.65-80

いまい たえこ(高知大学国際・地域連携センター国際連携部門非常勤講師)  
いけ じゅんこ(高知大学国際・地域連携センター国際連携部門非常勤講師)  
とうじょう みき(高知大学国際・地域連携センター国際連携部門非常勤講師)  
おなか みよこ(高知大学国際・地域連携センター国際連携部門非常勤講師)

[資料1]

2011 タスクシート なまえ：

	Questions	Answers
1	おなまえは なんですか。 Onamae wa nan desu ka? (What's your name?)	1
		2
		3
		4
		5
2	おたくは どちらですか。 Otaku wa dochira desu ka? (Where is your house?)	1
		2
		3
		4
		5
3	おたんじょうびは いつですか。 Otanjoobi wa itsu desu ka? (When is your birthday?)	1
		2
		3
		4
		5
4	わたしのくにへ いったことがありますか。 Watashi no kuni e ittakotoga arimasuka? (Have you ever been to my country?)	1
		2
		3
		4
		5
5	(Please ask any question you want to.)	1
		2
		3
		4
		5
Task1: How many people did you find who were born in the same month as you were born in? Task2: What did you learn in this event? (in English, Japanese or Chinese)		



[資料2]

**COURSE REVIEW QUESTIONNAIRE**

This questionnaire is to ask your impression about our Japanese Affairs class.

Please answer the following questions. NAME.

I About our topics.....

How did you like each topics? If you will choose No.2, please give us your suggestions.

(1)2011.11/1: Nihongo Café(preparation)

1 It's need → Why?

2 It's not need. → Why? What kind of preparation you want to do?

3 I don't know.

(2)2011.11/3: Nihongo Café ((6)まで同じ質問)

1 It's good. → What kind of points did you feel good?

2 It's not good. → Why? 3 I don't know.

(3)2011.11/29: Let's try to cook Japanese food!

(4)2011.12/17: Let's go to Kochi City!

(5)2011.12/20: The traditional events of Japan (New Year Card)

(6)2012.1/8: Let's enjoy "Oshogatsu", a Japanese New year day!

II What is the most favorite topic for you? Please write the order.

(1 ~ 5)( )Nihongo Café ( )Let's try to cook Japanese food!

( )Let's go to Kochi City!

( )The traditional events of Japan(New Year Card)

( )Let's enjoy "Oshogatsu", a Japanese New year day!

III What kind of topic did you want to study about Japanese things at first?

IV How did you feel about the studying way

A: To have an experience(the tea ceremony etc...)

B: To study in the class(watching TV, Video etc...).

Please write your comments.

V If you have any requests, please write freely.

\*Thank you very much for your cooperation.

2012.1.17.Imai, Tojo

